



第3回

# 万葉の郷とっとりけん 全国高校生短歌大会

## 【本選大会】

令和3年11月7日(日)


10:00~12:00

会場: 県民ふれあい会館 ホール



■主催 鳥取県

■後援 鳥取県教育委員会 鳥取県高等学校文化連盟 鳥取県歌人会 朝日新聞鳥取総局 共同通信社鳥取支局  
山陰中央新報社 産経新聞社 (株)新日本海新聞社 時事通信社鳥取支局 中国新聞鳥取支局  
毎日新聞鳥取支局 読売新聞鳥取支局 NHK鳥取放送局 TSKさんいん中央テレビ テレビ朝日鳥取支局  
日本海テレビ BSS山陰放送 いなびぴょんぴょんネット (株)中海テレビ放送 日本海ケーブルネットワーク  
鳥取中央有線放送(株) (順不同)



とっとり県民カレッジ連携講座、第19回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2021参加事業



# 次第

司会 田中 奏子

1. 主催者あいさつ 鳥取県知事 平井 伸治
2. 本選トーナメント  
準決勝 第1回戦  
準決勝 第2回戦  
準決勝 第3回戦  
決勝
3. 結果発表、講評

## 審査員



### 大辻隆弘氏

『未来』編集発行人・選者。  
現代歌人協会会員、現代歌人集会理事、日本文藝家協会会員、中部日本歌人会副委員長、第29回斎藤茂吉短歌文学賞、第12回島木赤彦文学賞受賞、第3回佐藤佐太郎短歌賞受賞。  
歌集『景徳鎮』評論集『近代短歌の範型』など著書多数。2019年度NHK短歌選者。高校教諭（国語科）。



### 穂村 弘氏

歌人。1962年札幌市生まれ。短歌のほかに評論、エッセイ、絵本、翻訳などを手がける。  
著書に『手紙魔まみ、夏の引越し（ウサギ連れ）』『ラインマーカーズ』『はじめての短歌』『世界音痴』『によっ記』『野良猫を尊敬した日』など。  
『短歌の友人』で伊藤整文学賞、『鳥肌が』で講談社エッセイ賞、『水中翼船炎上中』で若山牧水賞を受賞。  
近刊に『シンジケート 新装版』がある。



### 江戸 雪氏

1993年に短歌を始める。河野裕子のもと「塔」短歌会にて活動。編集委員、選者を経て2020年末に「塔」を退会。  
2021年夏に短歌冊子「西瓜」を創刊。大阪市咲くやこの花賞文芸部門受賞。  
歌集は『昼の夢の終わり』『声を聞きたい』『空白』があり、そのほか入門書『今日から歌人!』がある。  
情感豊かで先進的な作風は、性別や年齢層を問わず共感を得ている。大阪市在住。

# 題

準決勝

先鋒「青」、中堅「歩」、大将「声」

決勝

先鋒「大」、中堅「布」、大将「会」

## 本選トーナメント



決勝

準決勝1

花月マーチ

(神奈川県立光陵高等学校)

つまようじ

(岡山県立岡山朝日高等学校)

準決勝2

もくようび

(宮崎県立宮崎商業高等学校)

1年6組

(鳥取県立鳥取東高等学校)

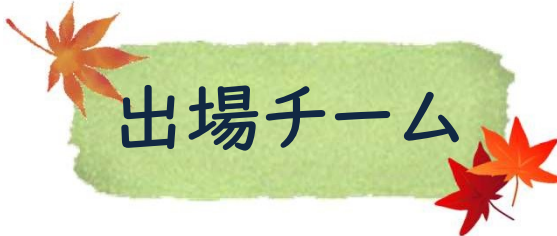
準決勝3

FIVE

(鳥取県立鳥取東高等学校)

海

(星野高等学校)



# 出場チーム

## 海

星野高等学校  
(埼玉県)

2年	江藤	雄士
2年	渡部	美咲
2年	秋池	花宥

星野高等学校は、埼玉県川越市にある創立125年目を迎えた学校です。川越は「小江戸」と呼ばれる歴史情緒あふれる街で、蔵造りの町並み、徳川家ゆかりの喜多院などには多くの観光客が訪れます。そんな環境の中、私たち文芸部は明るく元気に活動をしています。特に短歌・俳句については、一日一句一首という活動で創作力を磨いています。チーム名でもある「海」のように豊かな想像力で私たちの世界を表現したいと思えます！

## 花月マーチ

神奈川県立光陵高等学校  
(神奈川県)

2年	高橋	愛花
2年	小野	愛加
2年	山田	千鶴

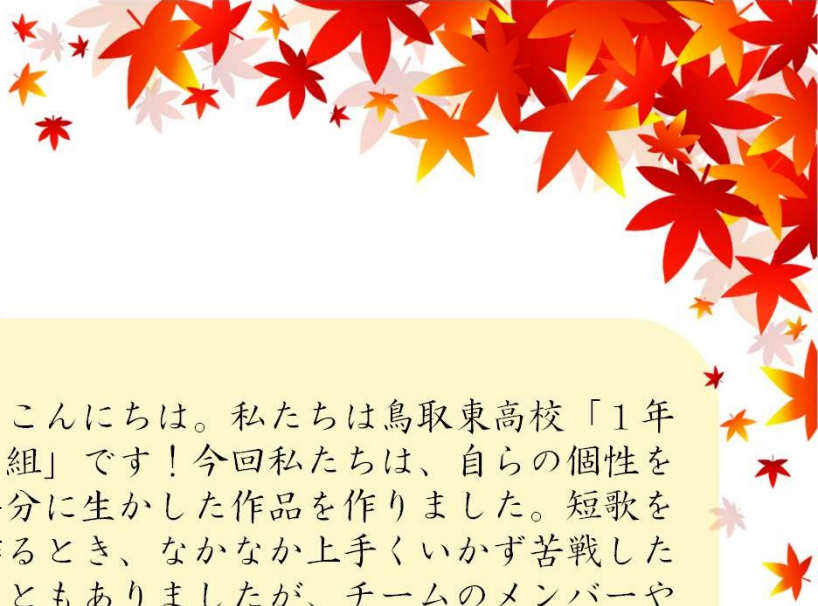
私たち光陵高校文芸部は毎週水曜日に活動しております。主な活動としては歌会の実施や親睦を深める人狼ゲーム、部誌の作成などを行っています。今年は2年生を含めた新入部員も入り、更に活気が出るようになりました。花月マーチの名前の由来は3人の下の名前の頭文字「ま、あ、ち」と「まーち→March→3月」ということで3月を表す「花月」という言葉を入れたものです。春のように若々しく色鮮やかな短歌で優勝を目指します！

## FIVE

鳥取県立鳥取東高等学校  
(鳥取県)

1年	神崎	萌衣
1年	影井	仁
1年	佐藤	美桜希

こんにちは。私たちは鳥取東高校「FIVE」です！このチームの名前は1年5組の「5」から名付けました。私たちの短歌はいろいろな季節にちなんだものがあります。普段は短歌にふれることがあまりありませんので、この大会を楽しもうと思います。私たちの個性ある表現で優勝を勝ち取りたいと思います。



## 1年6組

鳥取県立鳥取東高等学校  
(鳥取県)

1年 田中 未菜  
1年 前田 清花  
1年 西川 はる

こんにちは。私たちは鳥取東高校「1年6組」です！今回私たちは、自らの個性を存分に生かした作品を作りました。短歌を作るとき、なかなか上手いはず苦戦したこともありましたが、チームのメンバーや先生と話し合い、諦めずに作品を上げることができました。そんな私たちの作品を、是非味わっていただけたらうれしいです。よろしくお願ひします。

## つまようじ

岡山県立岡山朝日高等学校  
(岡山県)

2年 辻 颯太郎  
2年 西浦 主真  
2年 楊 博文

「つまようじ」とは、メンバー3人の名前から1～2文字ずつ取ってつけた名前です。3人ともそれぞれ違った個性を生かし、お互いにアイデアを出し合うことで、日々協力して創作活動を行っています。得意分野の違いを生かし、自由な作風と様々な人の提案の活用、それを取り込む柔軟さが特徴のグループです。

## もくようび

宮崎県立宮崎商業高等学校  
(宮崎県)

2年 窪田 麗未  
2年 守田 葉梨  
2年 貴島 大地

宮商文芸部では、9人が短歌・俳句・詩・小説など、幅広いジャンルの創作に取り組んでいます。今回は、2年生の女子2人、男子1人が出場します。3人ともとても仲が良く、切磋琢磨しながら良い作品を作ることに力を注いでいます。3人で出場する大会は2回目ということもあり、前回よりも良い結果を残して、大会を楽しみたいと思います。よろしくお願ひします。



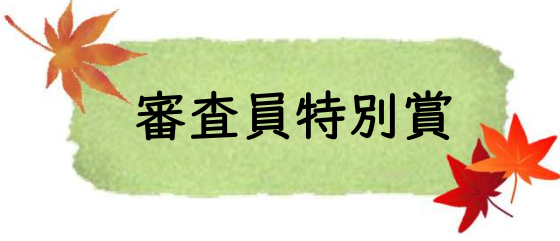
# 準決勝作品

第一回戦						第二回戦					
花月マーチ			つまようじ			もくようび			1年6組		
大将	中堅	先鋒	大将	中堅	先鋒	大将	中堅	先鋒	大将	中堅	先鋒
喧噪の中で聞こえた呼び声が風切る燕のようであったと	ことごとと音を重ねてパイ生地焼ける速度で君と歩いた	青春が燃え尽きるのを知っていて焦りたくなる走りたくなる	プロゾンの香りにはずむ君の声ぼくの鼓膜が忘れずにいる	忘れられ消えゆくものの声の色歩道橋から見てた夕焼け	群青の絵の具溶かしたテレピンは涙のかわりに少しこぼれる	歌えない校歌の裏声掠れてる君はいつでも笑顔のまま	「止まれ」から先に進めぬ大人たち白線踏んで私は歩く	夕まぐれ空の淋しさぱかぱかと青信号が点滅している	夕暮れに染まる教室ただ一つころがる声の行き場ないまま	大股で歩くとなりを駆け足でどちらが速い？どちらも同じ	ほの暗い視界の中でもちあげるカメラの青いレンズを空へ
山田 千鶴 やまだ ちづる	小野 愛加 おの まなか	高橋 愛花 たかはし あいか	楊 博文 よう ひろふみ	西浦 主真 にしうら かずま	辻 颯太郎 つじ そうたろう	貴島 大地 きじま だいち	守田 葉梨 もりた はんな	窪田 麗未 くぼた れみ	西川 はる にしかわ	前田 清花 まえた きやか	田中 未菜 たなか みらい



第三回戦

FIVE			海		
大将	中堅	先鋒	大将	中堅	先鋒
私の声叫んで誰にも届かない海を見ながら一人たたずむ	バイバイと別れた君の横顔はまだまだ遠いまだまだ歩く	夏休み感想文を書いていくまっさらのしおりに青空映る	少しだけ高きあなたの歌声にアドナインスの響きを加ふ	アスファルト蹴飛ばしながら追ひ越したずれる歩幅に気づかぬ君を	絨毯のやうな青さの海原に拳で散らす夕陽の死骸
佐藤 美桜希 さとう みさき	影井 仁 かげい じん	神崎 萌衣 かみざき めい	秋池 花宥 あきいけ みひろ	渡部 美咲 わたなべ みさき	江藤 雄士 えとう ゆうし



審査員特別賞

大辻隆弘賞

全力でバトンを渡す「はい」というかすれた声も友は背に聴く  
山口県立光高等学校 3年 深谷 乃梨子

穂村弘賞

トンネルを抜けたら海と空の青列車が揺れて肩がぶつかる  
鳥取県立鳥取東高等学校 1年 寺谷 陽菜

江戸雪賞

バイバイと別れた君の横顔はまだまだ遠いまだまだ歩く  
鳥取県立鳥取東高等学校 1年 影井 仁





入選作品

不機嫌な君は頬張る夏氷あっかんべーと青いべ口出す

宮城県宮城第一高等学校

一年

菅 凌太郎

本棚に沿って私は歩いてく世界の数だけ湧く好奇心

愛知県立豊橋西高等学校

二年

佐藤 秋雅

書く度に失っていく青春の対価にもらう選外通知

秋田県立秋田北高等学校

二年

相場 一杜

夕暮れを告げる鳥の鳴き声が昨日と違う一人の家路

愛知県立豊橋西高等学校

二年

中村 颯汰

夕暮れの横断歩道を闊歩する世界が私のためだけに染まる

秋田県立秋田北高等学校

一年

角崎 良佳

青汁の粒の濁りに丸を描く志望校また下げろだなんて

名古屋高等学校

一年

大塚 宣孝

頬の上つたい落ちてく汗の中瞬く青があった気がした

神奈川県立光陵高等学校

二年

森 葵唯

頑張れの声があるから頑張れるその八割が建前なのに

名古屋高等学校

一年

山田 真滉

せーのって声を合図にとびこもう等間隔にすぎてく日々へ

神奈川県立光陵高等学校

一年

藤井 渚央

8月の熱から逃げよとコンビニへ青いソーダアイス汗かく

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

安道 心音

青虫の一步一步が春深め私は強くペダルを踏み込む

愛知県立豊橋西高等学校

二年

早崎 苺亜

ふて寝していじけていたら指先に青いネイルと母の優しさ

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

石破 真緒

青色のペンキをびしゃっと振りまけば春の嵐がいまここに来た

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

太田 絢女

授業中窓から見えた空と海ノートに広がる青色のペン

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

小橋 花音

青色のバケツの中にまたひとつまたひとつ手の花火消えてく

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

岡村 梨央

青空にぽかりと浮かぶ白い雲同じ立場になれるだろうか

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

近藤 れい

青い方しかないスリーディーメガネしか見ることの無い不思議な世界

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

加藤 綜真

ふとみあげ空一面に青一色丸くやさしく包んでいたよ

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

佐藤 美桜希

青い空見ずに終わった1日の僕は布団で動かずにいた

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

城戸 洋輝

おつかれとオール運んで空見上げ初めて気づく夏の青さに

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

谷口 晴

あんなにも美しかった青空がどうして夜に黒くなるのか

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

小谷 虎太郎

初めての沖に出た日の透明な青の底にははっきりと砂

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

田原 志桜

空の色なんで青いか知っている君の力説ソーダのアイス

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

小谷 空

何色が好きかと聞かれ思い出すあの子は確か青色が好き

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

田村 郁奈

トンネルを抜けたら海と空の青列車が揺れて肩がぶつかる

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

寺谷 陽菜

あの人と二人で歩く帰り道向こうの景色がゆっくり進む

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

加藤 綜真

喧嘩した腫れたまぶたの朝の庭のトマトはまだ青かった

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

廣瀬 郁美

オレンジに包まれている散歩道広がり続けるふたりの話

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

川戸 美岬

青空と海とヨットと太陽と次はこの絵に何を足そうか

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

前田 虹太

今はないここに大きな木があった少し止まってまた歩きだす

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

小谷 虎太郎

移りゆく青い季節の十五年カメラの中のインサイド・ヘッド

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

水口 詞美

今日だけは歩きのきみとふたりきり心のペダル力強く踏む

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

坂本 晃輔

球を追い汗を流して水を浴び青よ見ている僕は輝く

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

渡邊 陽光

よこならば自転車おしっつつ歩くみち長い道のり短く感じた

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

田中 未菜

盆休みいとこを連れて散歩する見下ろす一步が私の三步

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

岡村 麻央

かえり道影に追われて歩くとき一人の音を強く感じる

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

谷口 晴

歩いてる。行く先はまだわからないでも前へ行くそれしかできない

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

平尾 優衣

またひとつ産声きこえ世界には僕は知らない命がやどる

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

太田 直希

帰り道星を頼りに歩く僕密林をゆく歩兵のように

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

松原 光汰

マスク取り大きな声で笑い合うそんな日がまた来ますように

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

杉本 琴奏

歩きたびどんどん消える足跡が今の私を成長させる

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

水田 瑛結

君を待つ僕を包み込む蟬の声本当に君は来るのだろうか

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

中山 琉生

別れたら歩幅気にせず帰る道歩幅大きいため息でかく

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

宮脇 遥規

僕たちの今は出せないその声が誰かに届くその時を追い

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

前田 清花

テーブルにバツと広げた日本地図伊能忠敬の歩幅が鳴った

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

山口 結生

また来るねわたしが言ったあの声は祖母の耳にはとどいていない

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

安田 芽愛来

エスケープ尾崎豊の吼える声23時に歪む√2

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

石破 真緒

青を溶く君の絵筆を目で追った視界いっぱい星空を見る

鳥取県立米子東高等学校

一年

原 乙嘉



先輩の前歯についた青のりは伝えるべきかそうでないのか

青翔開智高等学校

一年

藤原 夢叶

全力でバトンを渡す「はい」というかすれた声も友は背に聴く

山口県立光高等学校

三年

深谷 乃梨子

手にしたい輝き目指し歩きたび僕の影さえ照らされてしまう

青翔開智高等学校

一年

藏増 凌生

青空の浜辺飛び立つ海鳥を水の鏡に映し出す影

米子北斗高等学校

二年

田辺 社人

散歩中どこかで君の声がして前髪直す十七の春

米子北斗高等学校

二年

久保田 紗月

車窓では光り輝く青い海がてのひらの中透明になる

山口県立光高等学校

二年

榑崎 みなみ

人生の岐路に立つ日の十七歳歩みを止めて小走りになる

山口県立光高等学校

二年

窪野 星夢

## 万葉の郷とっとりけんについて

『万葉集』は、現存する日本最古の歌集といわれています。

主に7世紀前半から8世紀にかけて、天皇や貴族、防人、農民などさまざまな立場の人約460名（作者不詳除く）に詠まれた、4500首以上の和歌が収められています。編さんに関わったと言われるのは、758年（天平宝字2年）に因幡国（現在の鳥取県東部）の国守として赴任した万葉歌人・大伴家持。家持が翌759年元日に因幡国庁で詠んだ新年を寿ぐ歌は万葉集の最後を飾っています。

その頃からさかのぼること約30年の730年（天平2年）1月に、家持の父・大伴旅人は長官として赴任していた大宰府（今の福岡県太宰府市）の自宅で庭の梅を囲む宴を開きました。新元号「令和」は、その宴で詠まれた歌32首のまとまりを解説した万葉集巻5「梅花の歌三十二首并せて序」の一節から考案されました。この宴には716年（霊亀2年）から5年間、伯耆国（現在の鳥取県中西部）の国守を務めた山上憶良も出席していました。奈良時代の鳥取県に赴任した二人の歌人は、『万葉集』に深く関わり、新元号「令和」ともつながっていたのです。

このように鳥取県には『万葉集』ゆかりの地が多くあります。万葉集に込められた情景に思いをはせながら、ゆかりの地を訪ねてみませんか。

■万葉の郷とっとりけんホームページ <https://www.pref.tottori.lg.jp/manyo/>  
（県内の万葉ゆかりの地を紹介しています。）

